

令和5年度学校関係者評価委員会報告書

令和6年4月2日

世田谷区立駒沢小学校

学校関係者評価委員会

委員長 福田麻里

本年度11月に実施しました「学校関係者評価」の結果をご報告いたします。

アンケート回収率・状況

児童:100%(校内にて実施)／ 保護者:49% ／ 地域 22名

(参考:紙配布で実施していたコロナ禍前の保護者回収率は常に80%台であった。オンライン実施に要工夫)

評価結果の分析方法

- ① 本年度の各アンケート項目の「とても思う」「思う」の回答数合計の割合を出す
- ② アンケートの項目ごとに昨年度と比較し「よくなった」「悪くなった」等の状況を把握する
- ③ 否定的答「あまり思わない」「思わない」「わからない」が多かった項目について考查する

総合所見

【成果】

- 全般的に教育活動に対して肯定的な評価結果(学習85%以上、生活指導80%以上、学校行事90%以上)であった。学校経営方針のもとに教職員が一丸となり日常の教育活動に取り組んでいることが、高評価につながったと考える。
- 学校が楽しい、話せる友だちがいるなど、友だちや先生と関わりながら楽しく学校生活を送っていると児童自身を感じている。保護者もまたその状況を高く評価している様子が伺える集計結果であった。学校からの様々な便りなどの情報提供による保護者の評価は高く、学校の重点目標をつたえる姿勢も保護者から評価されている。また保護者も学校行事や学校公開に積極的にすすんで参加しており、学校と家庭が相互に子どもたちの成長を見守っていると受け取れた。

【課題】

- 上述の通り、便りからの情報発信は評価が高いが、ホームページやメールなどの情報提供については数値が落ちている。また学校の重点目標を伝える姿勢は評価されているが、保護者がその重点目標を理解するまでには至っていない。このことから保護者のニーズにあった情報提供のあり方を模索する必要がある。
- 「学校のきまりを守って行動している」「交通ルールを守っている」に関して、20%近くの児童が否定的な回答を寄せた。
- 目標を持ち、その実現に向けて努力している児童(約80%)に対し、「将来のことを考える授業がある」についての回答は、約60%に留まった。
- 区立中学校に関する情報がない・わからないと感じる児童が50%を超えていた。毎年「わからない」という回答が多いのが、「駒の学び舎」の交流活動・連携、地域運営学校、学校運営委員会の活動など地域連携に絡んだ項目であるが、今年度もやはりまた評価が低かった。

今年度の評価委員会は、上記総合所見の課題部分に注目して考察した。以下の提言をもとに、学校運営の改善につなげてもらいたいと考えている。

【提言】より開かれた駒沢小学校、より地域に愛される駒沢小学校を目指して

- ① 日頃から交通ルールの順守、学校のきまりについては、油断することなく、自覚を持って学校生活を送るよう、徹底して指導願いたい。安心・安全な学校づくりは、災害時などにおいて特に力を発揮すると考える。新型コロナウィルス感染症が第5類に分類され交流活動の制限がなくなったこともあるので、今後は学校、PTA、町内会などが協力し、地域全体で常に子どもたちを見守るしくみ・取り組み作りに励んでいただきたい。
- ② 地域の大人から将来のことや生き方について学ぶ機会であるキャリア教育授業については、今後は最高学年の6年生のみならず、保護者の自由参観および他学年での実施も広く検討していただきたい。講師も保護者や地域から広く募集するなど地域全体を巻き込んでいってほしい。また、コロナ禍前に実施されていた「ご高齢者サロン陽だまり」との給食交流など地域の協力や同窓会で運営した行事を復活させるなど、地域との連携や交流をさらに図っていくことを期待する。
- ③ 学校・保護者・地域が一丸となって児童の成長を全方向から見守るためには、学校の情報発信力、広報活動の強化・工夫が必須である。特に毎年の課題にあがる「駒の学び舎」駒沢中学校との連携については、まずは学校だよりを共有したり、あいさつ運動で小学生と中学生との交流を定期的に実施したりするなど、できることから進めていただきたい。なお、学校内掲示板など身近なツールも利用しつつ、学校ホームページ、「すぐーる」アプリ発信などでの様々な学校での活動内容の広報を、一層知恵を絞って進めていただきたい(ページ更新時のプッシュ通知による積極的な周知など)。

提言を受けての小学校の取り組み

- ① ·学校のきまりについては、何のためのルールなのか子どもたちが理解できるよう生活指導部を中心に毎年見直しを行い、学校生活の実態に合ったきまりを設定していく。
·交通ルールの徹底については、引き続き1年生の交通安全指導、3年生の自転車教室を行うとともに、生活指導部で下校の見守り活動を行う等、具体的な取り組みを行う。また、保護者会等で話題に取り上げ、学校と保護者、そして地域が一体となって指導していく。
- ② ·キャリア教育においては今年度の学校運営委員会での意見をもとに、地域を巻き込んだ活動を1~6年生で実施していくよう内容の検討を行い、学年の実態に応じた新しい形を構築していく。
例) 1年生→動物とのふれあい 2年生→町たんけんや昔遊び 3年生→こまざわの歴史、七輪体験
4年生→給水塔見学 5年生→お抹茶体験 6年生→職業について
·地域や同窓会で行っていた行事については、各教科での学習や教育活動の中で取り入れられる活動を教育課程に位置づけていく。
- ③ ·日々の教育活動や様々な行事の様子を、学校だよりやホームページでさらに発信していく。
·学校内外の掲示板を有効利用し、情報発信や広報活動を行っていく。例えば、子ども掲示板には行事に合わせて作成したポスターを掲示したり、委員会活動の取り組みを地域に知らせたりしていく。
·学び舎の交流については、提言のとおりできることから進めていく。来年度は「魅力ある学校づくり」のパイロット校として研究をすすめていくため、どのような活動ができるか検討を重ねていく。

終わりに

コロナ禍の経験を通して、これまで行われてきた子ども達の活動について見直しが行われています。「笛木と流行」の言葉通り大切であるべきものを尊重しつつ、時代の変化に柔軟に対応すべき点も明らかになりつつあります。特に、地域・教育施設との交流について、更に発展させ保護者の皆様地域の方々と共に、魅力ある学校づくりを目指してまいります。

世田谷区立駒沢小学校長 鈴木 聰